

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録（血液検査結果や画像検査結果を含む）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	甲状腺濾胞癌に対するヨード内用療法の当院での治療成績
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	放射線科 助教 高田 紀子
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日
対象となる方	2013 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日にヨード内用療法を受けた甲状腺濾胞がんの患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、身長、体重、病期、甲状腺手術時の病理結果、遠隔転移の部位、現病歴、合併症、既往歴、投薬歴、ヨード内用療法の治療線量や回数、放射線外照射歴や薬物治療歴等の治療状況、血液検査データ、画像検査データ等
研究の概要 (目的・方法)	甲状腺濾胞がんは甲状腺がんのうちの 5%を占め、最多である乳頭がんと同じく分化型甲状腺がんに分類されています。術後に再発の可能性が高いと考えられている方や他の臓器に転移がある分化型甲状腺がんの治療にはヨード内用療法が行われていますが、これまでの当院の経験からは乳頭がんと比較してヨード内用療法だけでは病気を抑えきれず、他の治療（薬物治療治療や、外から当てる放射線治療）を必要とすることが多いと考えています。それでも乳頭がんと比べると治療が難しい印象をもっており、濾胞がんの治療戦略の見直しが必要なのではないかと感じています。したがって本研究では、これまでに当院で行ってきた濾胞癌の患者さんに対するヨード治療の効果や治療経過を振り返って詳細に分析

	することで、今後の甲状腺濾胞がん患者さんのより適切な治療戦略を行って行くことにつなげていきたいと考えています。 本研究では、甲状腺濾胞癌患者さんについて、ヨード治療開始から病気が増大するまでの期間や、生存期間について情報収集を行います。また、転移の部位、ヨード内用療法の治療線量や回数等の臨床的な因子についても情報収集を行い、治療成績と関連しているかどうかについても比較検討を行います。
個人情報の保護 について	この研究で収集される情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院放射線科 高田 紀子 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5371